

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	キリスト教美術 (Christian Art)	新座(Niiza)	
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	キリスト教美術の見方—基礎知識からより深い理解へ		
担当者名 (Instructor)	米倉 立子(YONEKURA RYUKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	CMP2300	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)			

授業の目標(Course Objectives)

キリスト教美術に関する知識は、西洋美術やキリスト教の世界観を理解するのに必要な大きな要素です。本授業では、キリスト教美術の読解に必要な基本事項を押さえることから始め、主題やモチーフの意味が分かるようになるだけでなく、画像が作り出される歴史的・社会的背景にも目を配って、画像の多様な機能や社会との関わりについて理解を深めることを目指します。

Knowledge of Christian art is a key element in understanding Western art and the Christian worldview. Starting with the basics necessary to read Christian art, the aim of this course is that students not only become able to understand the meaning of the subjects and motifs, but by paying attention to the historical and social background in which the images were created, students deepen their understanding of the various functions of the imagery and its relationship with society.

授業の内容(Course Contents)

普段美術館の展示室で「美術作品」として、その時々テーマに沿った組み合わせで並べられた画像を見ること多い私たちが、聖性を帯びた宗教的画像が本来置かれていた状況ではどのように機能していたのか、その多様なあり方を探っていきましょう。

まず作例を多数見ながら、キリスト教美術に頻出する主題やシンボリックなモチーフの意味を知って、画像読解の基礎知識を学ぶことから始めます。

授業後半では偶像崇拝を禁じているユダヤ教を母胎として生まれたキリスト教と画像の関係がどのような変遷を辿ったか、歴史的側面にも目を向けます。神の姿を画像化したい、神の存在を感じたいという要請と偶像崇拝の危険をめぐる葛藤を大きなテーマとして考えていきます。また、建築空間の中で固定された、動かせない壁画とそこで行われる典礼との有機的な関係を、イタリアのラヴェンナの聖堂を事例として見ていきます。

人によっては、「美術」というと感覚的な印象や才能の有無などで鑑賞されたり、評価されたりして基準があいまいでわかりづらいもの、あるいは現在の資産的評価で価値が決まりうるものと思っていたりするかもしれません。しかし、そのような捉え方だけでは現在の私たちと異なる時代や地域の人々の感覚を理解できません。本授業では、作例がどのような社会の中で生まれ、どのように捉えられていたのかに注目し、宗教的崇敬対象として、また多様なメッセージを発する視覚的情報メディアとしてのキリスト教美術を考察していきます。

We often see these images arranged by theme as "art works" in museum exhibition rooms, but in this course we will explore the functions of the diverse situations in which sacred religious images were originally placed.

We will start by learning the basic knowledge of iconographical interpretation by first looking at many examples and coming to know the meaning of recurrent subjects and symbolic motifs in Christian art.

In the second half of the course, we will also examine the relationship between the image and Christianity from a historical viewpoint, tracing back the Christian prohibition of idol worship to Judaism. The conflict between the desire to make images of God and to feel His presence thereby and the risk of idolatry will be a major theme. In addition, we will look at the organic interaction between the immovable murals fixed in architectural spaces and the ceremonies performed there, taking as an example the basilica of Ravenna in Italy.

Some people think that "art" is something that is appreciated or evaluated based on feelings or the presence of talent, where the criteria are vague and hard to understand, or where the value can be determined by the current asset valuation. However, with such a way of thinking alone we cannot understand the senses of people of different times and regions from us today. In this course, we will focus on what kind of society the work was born in and how it was viewed, and consider Christian art as an object of religious admiration or a visual information media that conveys various messages.

授業計画(Course Schedule)

1. シラバスの解説(授業内容・スケジュール・評価方法等についての説明)、ガイダンス(メッセージを運ぶメディアとしての画像)
各自どのような美術作品やヴィジュアルイメージに関心があるかなど、アンケートに回答など。
2. キリストの生涯をめぐる主題1-「幼児伝」「公生涯」
3. キリストの生涯をめぐる主題2-「受難伝」
4. 聖母マリアの画像1-「マリアの幼児伝」「受胎告知」

5. 聖母マリアの図像 2-「聖母子像」「聖母被昇天」
6. 聖母マリアの図像 3-聖母マリアに関わる図像の源泉、その多面的な性格
7. 聖ヨセフの図像の変遷-マリアの夫、イエスの養父たるヨセフはどのような役割を引き受けてきたか
8. 旧約聖書 1-旧約聖書の物語図像 アダムとエヴァー 神人同型の根拠、ノア
9. 旧約聖書 2-旧約聖書の物語図像 アブラハム、モーセなど
10. 旧約聖書 3-旧約聖書の物語図像 ダヴィデ、ソロモン、ヨナ、ヨブなど
11. キリスト教美術の草創期 1-古代ローマにおけるキリスト教と図像を取り巻く状況
12. キリスト教美術の草創期 2-初期キリスト教時代の図像の様相
13. 建築空間と図像の対応 1-ラヴェンナ ガッラ・ブラチディア、テオドリクス王の時代の建築
14. 建築空間と図像の対応 2-ラヴェンナ ユスティニアヌス帝時代の建築

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

コロナによって、展覧会に行ったり旅に出たりすることが難しくなっていますが、機会があったら是非本物の作品を見る機会を作ってください。日本の美術館で見られる作品の割合において、キリスト教美術は多いとは言えないかもしれませんが、実物を見ることで、画像等では伝わらない作品のサイズや質感を発見してみましょう。

授業時に資料を配布するので、それらを参照して、授業の復習をすること。

参考文献にも是非目を通してください。

成績評価方法・基準(Evaluation)

中間レポート(40%) / 最終レポート(Final Report)(40%) / 随時行うリアクションペーパーの提出(20%)

テキスト(Textbooks)

なし

参考文献(Readings)

1. E.H. ゴンブリッチ [著] ; 天野衛 [ほか] 翻訳、2011、『美術の物語』、ファイドン (ISBN:9784864410069)
2. 青柳正規ほか、1999、『西洋美術館』、小学館 (ISBN:4096997056)
3. 水野千依、2014、『キリストの顔: イメージ人類学序説』、筑摩書房 (ISBN:9784480016010)
4. 秋山聰、2018、『聖遺物崇敬の心性史: 西洋中世の聖性と造形』、講談社学術文庫 (ISBN:9784065135181)
5. 加藤磨珠枝、益田朋幸、2016、『西洋美術の歴史 中世 I キリスト教美術の誕生とビザンティン世界』、中央公論新社 (ISBN:9784124035926)
6. 越 宏一、2016、『ラヴェンナのモザイク芸術』、中央公論美術出版 (ISBN:9784805507568)
7. ベルトラン・ランソン著 ; 大清水裕、瀧本みわ訳、2013、『古代末期: ローマ世界の変容』、白水社 (ISBN:9784560509814)
- 岡田温司著『キリストの身体: 血と肉と愛の傷』中公新書、2009。岡田温司著『処女懐胎: 描かれた「奇跡」と「聖家族」』中公新書、2007。岡田温司著『アダムとイヴ: 語り継がれる「中心の神話」』中公新書、2012。水野千依編『古代から初期ルネサンスまで-西洋の芸術史造形篇く1』幻冬舎、2013。池上英洋著『西洋美術史入門』ちくまプリマー新書、2012。池上英洋著『ヨーロッパ文明の起源: 聖書が伝える古代オリエントの世界』ちくまプリマー新書、2017。中村明子著『聖書と名画: ビジュアル図解』、西東社、2017。

その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<http://artscape.jp/> (展覧会情報サイト)

<http://www.wga.hu/index1.html> (3世紀から19世紀までの美術作品画像が網羅されたサイト)

皆さんへの授業関連のお知らせや資料配布などは Blackboard ではなく、全て「立教時間」を通じて行います。

提出期間を定めたリアクションペーパーや課題レポートの提出をもって、授業に出席したと見なし、授業内容の理解度を測りません。

何かわからない点がありましたら、以下の教員宛てアドレスに「学科・学年・学籍番号・名前」を必ず明記の上、メールしてください。米倉メールアドレス: @rikkyo.ac.jp の前に 5537975 と入れてください。

注意事項(Notice)